

# まちづくり 一期一会

## 大塚全一先生



大塚全一先生

## 苦瀬博仁 くせ ひろひと

1951年3月東京生。早稲田大学土木工学科卒業、修士・博士課程修了。工学博士。日本都市計画学会石川賞、世界交通学会論文賞、日本物流学会賞著作賞。日本都市計画学会常務理事、日本物流学会副会長などを歴任。著者「都市の物流マネジメント」など。



大塚全一先生は、建設省(現、国土交通省)の技術審議官と帝都高速度交通営団(現、東京地下鉄(株))の理事を経て、昭和50年(1975年)4月から早稲田大学理工学部土木工学科の都市計画研究室の教授に就任された。石川栄耀先生、松井達夫先生の後の三代目にあたる。いま都市計画は中川義英先生、交通計画は浅野光行先生が、継いでおられる。

私が大塚先生とお会いしたのは、松井先生の指導を受けた後に博士課程に進学したときである。あるとき研究計画書をお見せしたら、2~3分眺めてから「飲みにいこう」と仰った。「思考の幅が狭い。この本を読みなさい」と深夜の小料理屋で手渡されたのは、なんとSF小説。翌朝、「昨日の本はどうだったか…」と聞かれてホトホト困った。週に2~3回は、お酒のお誘いがあった。生態学を読み、二次曲線は面白いぞ、地政学を知っておけ、歴史を数学で解く本があるぞ、俺の漢詩はどう思うか、など。話題が都市計画の範囲を超えていたのは、私の知識不足と心構えの不備を見抜いてのことだと思う。

大塚先生は「者」がつく職業になぞらえて、教師を5つに分類していた。「将来を見通す易者」、「診断し治療する医者」、「学を極める学者」、「脚本どおりに演じる役者」、「芸を披露する芸者」。どれもこれも一流になるためには大変な努力が必要だが、性格や人柄、環境や努力によって、どの「者」になるかは変わるとのこと。できれば、「学を備えた易者を目指せ」とのご指南だった。将来の都市を計画するなら、当然のことかもしれない。

博士課程を修了するときは、「まともな土木屋になって見ろ」ということで建設会社にお世話になることになった。結婚相手がいないのに、「仲人は全部断ってきたが、君のは引き受ける」との宣言には、嬉しい反面、戸惑った。

縁あって東京商船大学(現、東京海洋大学)にお世話になるときは、「先生には、ティーチャー(教育者)、リサーチャー(研究者)、インストラクター(指導者)がある。君は、インストラクター向きかな」とのこと。教育も研究も能力不足かとショックを受けたが、「指導は、教育と研究の先にあるはず」と考え直して、努力を誓った覚えがある。

大塚先生の教育姿勢は、遠くの目標を示し基礎に心を配り、その間の努力は本人に任せた。それだけ、広い視野と長期的な視点を意識しておられた。

大塚先生と私は、偶然にも干支と生まれ月が同じである。そして今年、大塚先生が大学に赴任した年齢になる。ときおり、大塚先生の語り口に似ている自分に驚くことがある。逆に、目先にとらわれ将来を占えず、目標にも道半ばで、気恥ずかしいことも多い。恩返しのために、もうしばらく努力を続けたい。

東京海洋大学  
理事・副学長

苦瀬博仁



大塚研究室 1981年1月頃  
中央が大塚先生、前列右から2番目が筆者



1995年12月 筆者がフィリピン大学、外尾一則先生(現、佐賀大学教授)がアジア工科大学の赴任を終えて帰国したときの会合。前列左から3人目から右に、鈴木信太郎先生、筆書、外尾一則先生、大塚全一先生、廣瀬盛行先生。